

○ 本校の概要

・学校規模 児童数375名 14学級 教員数 21名
 ・校内研究主題 「伝え合い、思考力を高める理科・生活科の学習」

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価 人数 コメント	
ブラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 体カテストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	年度末児童アンケートの「授業中は、先生や友達の話をよく聞いている。」「自分の意見をたくさん発表できる。」で「とても思う」「思う」と回答した児童の割合	4:90%以上	本校児童の実態を踏まえた授業改善プランを作成し、そのプランに沿った授業づくりを行ってきた。 今年度は専科として、外国語教育指導員とALTが連携を図り、コミュニケーションを中心とした外国語の学習を重視し、会話力、異文化への関心を向上させた。昨年度に続き、スピーチなども取り入れ、さらにコミュニケーション能力の育成を図った。書こことについても充実を図った。 算数科の学習については、学習指導補助員を加え、2年生から習熟別学習を行うことにより、児童の習熟度の向上に努めた。 ICTの活用は、1人1台のタブレットを有効に活用した。タブレットを活用した学習を各教科で行い、児童が学習用具の1つとして活用することができた。特に4～6年生では、日々の学習の中で効果的に活用し、学習態度をさらに上げた。コロナ禍の状況においても、自宅で学習を進める児童に対して、学びの保障をすることができた。必要に応じ、双方向の学習も行いことができた。今年度の体力テストの結果としては、若干の向上は見られたものの、本校の課題である、握力立ち幅跳びに比べて課題が残った。休み時間の外遊びを推奨し、感統対策をした上での体育の実施をできる限り充実させることを今後も検討し、児童の体力向上を目指す。また、今年度は、コーディネーショントレーニングを1年間継続（ア）、「児童の運動機能向上」にも努	A 3 B 5 C D	学校が楽しいという子どもが90%以上となっているのが最高だと思えます。勉強だけでなく、共に楽しむ学友がいて、切磋琢磨しながら学校生活をエンジョイしている。学力向上につながると考えます。 周囲に影響されることなく自身の意見を発表できる「力」も必要です。 コロナ禍で学校の行事などに何えず、どのようになっているのか全く分かりません。先生方、保護者、児童の評価を4倍にしたいと思えます。大変な状況ですが頑張っていたと思います。 コロナ禍の中で学校に行く機会がなかった為、あえて文章で決めさせていただきました。今後とも子どもたちの為にお願いいたします。
			4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。	2		3:80%以上			
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3		2:70%以上			
			4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	2		1:70%未満			
ブラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 問題解決的な学習や、児童が主体的・対話的で深い学びにつながる学習活動を取り入れる。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	2	年度末児童アンケートの「授業中勉強がよくわかりますか」で「よくわかる」「わかる」と回答した児童の割合	4:90%以上	児童の学習の実態をもとに、各教科において授業改善プランを作成した。教科主任や先生方に対して、全教員がプランに沿って授業づくりを行ってきた。算数科の学習に困難さを感じている児童については、土曜授業日に補習を行い、講師、専科教員も含めた全教員が指導に当たった。学習カルテを活用し、個別の学習状況に合わせて指導を行った。その結果、年度末児童アンケートの4月のころよりも、勉強(べんきょう)がよくわかるようになった。この問いに肯定的な回答をした児童は、「授業中は、先生や友達(ともだち)の話をよく聞いている」と回答した児童の割合が約9割であった。 一方で自分の意見をたくさん発表できるか」との問いに肯定的な回答をした児童が全体の7%であったことから、今年度は発表の経験を充実させ、伝える力のスキルアップを図っていく。ICT機器の充実により意見を伝える方法は増えたものの、同時に自分の言葉で人に発信する力は育てる必要がある。「宿題や自主学習など毎日家庭学習に取り組んでいますか」の問いは、約8割と変わらなかった。コロナ不安からオンラインでの学習をする児童が増える中、家庭での学習の充実がとても重要になってくるため、各家庭と協力して進めていく。	A 3 B 5 C D	コロナ禍の最中で学校だけの問題ではない、家庭との連携を密にし、協働を取り組むことが大事だと思います。コロナ禍だからこそ、やらなければならないこと、またできることがたくさんあります。創意工夫をお願いします。 自発的に学ぼうとする意欲を育ててあげてください。 ICTの活用と同時に自分の言葉で人に発信する力を育てることは重要だと思っております。頑張ってください。
			4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が働かかけた。 2:60%以上の教員が働かかけた。 1:60%以下の教員が働かかけた。	3		3:80%以上			
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3		2:70%以上			
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3		1:70%未満			
ブラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心など、未来への希望に満ちた豊かな心を育む。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	年度末児童アンケートの「きまりを守って生活していますか」で「きちんと守っている」「だいたい守っている」と回答した児童の割合	4:90%以上	児童の間で起こる問題に対して、迅速な対応をした。また、クラスや学年の問題としてではなく、学校の問題として組織的に問題解決に取り組んだ。引き続き、児童の話をよく耳を傾けるよう努め、話を聞く機会も多くなることで、児童理解に努めた。毎週金曜日に教員が児童の情報を共有する機会をとり、学校全体で組織的に解決を図ることができた。 大田区の学校生活調査やいじめ防止アンケートなど、結果を有効に活用することで、さらに深く理解解した。問題に対しては保護者にも迅速に伝え、進捗状況を共有しながら解決を図ることができた。 学級経営においては、今年度も「東六郷スタイル」を全校のきまりと位置付けて指導徹底を図り、継続して規範意識の向上に努めた。「きまりを守って生活していますか」の問いの肯定的な回答が88%と良い結果ではあったが12%の児童への指導をきめ細かく行っていく。「先生の話や友達の発表のときは相手の目を見てだまって最後まで聞いて	A 4 B 4 C	わかりやすい授業に子どもたちは関心を示します。教える側の努力が必要です。そしていつでも児童の相談のついでにあげられる姿勢をもつことが望まれると考えます。これも家庭との連携・協働で行ってください。コロナ禍の中はデジタルを駆使して子どもたちの学力向上につなげてください。 古い概念を引きずらない道徳教育をお願いします。 子どもたちの友達付き合いは、進級やクラス替えなどで激減しますので、よく見守ってください。 異学年交流の充実をお願いします。
			4:「組織的に対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2		2:70%以上			
			4:「組織的に対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2		2:70%以上			
			4:必要な事業に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事業に対しておおた会議を実施した。	3		3:80%以上			

14	はくくみ す。	生徒に関するケース会議を実施する。	2: 必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1: 必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	2	1: 7 0% 未満	いますか」の問いに対して肯定的な回答をした児童が82%であった。それ以外の12%の児童に対して、児童が話を聞くことが、学習に必要なという意識をもつことができるよう指導を続けていく。 今後生活指導面については、保護者と課題を共有し、学校と家庭と連携を取っていく体制を作る。	D				
4	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。	3	4: 9 0% 以上	年度末児童アンケートの「早寝・早起き・朝ごはんを意識した生活ができますか」「できています」「ほぼできている」の割合	早寝早起き朝ごはんの取り組みでは、学校全体の朝ごはんを毎日食べている割合は90.3%。昨年度の84.2%から増加傾向にある。学年別でも、どの学年も80%以上である。この傾向を保持できるようにしながら、食べないや回答している児童にも個別に働きかけて行く。6月と11月の「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みについては、保健室前「頑張りカード(全児童分)」の集計を掲示し実態をつかませる工夫をした。課題の「早寝」に加え、朝の排便の問題は状況が大きな変化がなかったため、本年度は排便の大切さや習慣づりを伝える保健指導を実施していく。睡眠の重要性も指導・啓発していく。各朝の朝ごはんを覚えていくことで、コロナ禍においても健康で意欲に満ちた生活児童自らが考えていけることができるよう家庭と連携して進めていく。	A	3	朝食をきちんと食べてくれることは1日の始まりです。規則正しい生活は、長寿につながると言われています。家庭教育の中で、最も大切なことです。家の中でゲームばかりでは、健康上良くないので、外で遊ぶことを指導してください。	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。	3	3: 8 0% 以上		保護者(大人)の日常生活が児童に反映すると思います。 朝ごはんを毎日90%の子もたちが食べてくるとは素晴らしいです。 早寝早起き朝ごはんの取り組みについても児童への「見える化」はとても大事だと思います。	B	5		
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。	2	2: 7 0% 以上		睡眠の重要性についての啓発・指導も頑張ってください。	C			
		健康観察や手洗いの習慣化を通して、健康への関心を高める。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。	4	1: 7 0% 未満		縄跳びなどテーマを決めて、体育の時間を確保するのが大変良いと思うのでお願いします。	D			
5	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	3	4: 9 0% 以上	年度末保護者アンケートの「子どもたちにとってわかりやすい授業を行っていた」「あてはまる」「おおむねあてはまる」の割合	理科・生活科の校内研究を重点教科として取り組み、授業改善を進めるとともに、教員の授業力改善に努めた。また、校内OJT研修については、新学習指導要領の理解を深める研修を行ったため、校内全体で学ぶ機会とした。	A	4	社会はデジタル時代へと前進しています。しかし、忘れてはならないのは、人と人とのつながりです。人を頼らなくてもなんとでもクリアできる社会になってきました。緊急時・災害時の対応は人と人のふれあいを平常時から培うことが大切です。	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4: 学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3: 学期に1回(年間3回)以上行った。 2: 年度間に1回以上行った。 1: 実施しなかった。	3	3: 8 0% 以上		また、ICT機器の活用にも注力し、多様な活用方法を検証し、授業に生かしていきたい。次年度のプログラミング教育への準備を進めていく。	B	4	授業公開を参観できず残念でした。	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	3	2: 7 0% 以上		保護者へのアンケートでは、「子ども達にとってわかりやすい授業を行っていた」という肯定的な回答が88.4%と昨年度と同程度の評価であったが今年度は「とてもそう思う」が6%増えた。今後も各教科の学力の定着に視点を置き日々の授業改善を継続する。	C		「子ども達にとってわかりやすい授業を行っていた」という肯定的な回答に対してとてもそう思うが6%増えたことは大変すばらしいです。細かい部分の積み重ねで、全体がアップしていくのだと思います。	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4: 月1回以上行った。 3: 学期に2～3回行った。 2: 学期1回以上行った。 1: 実施しなかった。	3	1: 7 0% 未満		特別支援教育の推進については、校内委員会を毎月確実に実施した。児童の指導について、分析・検討し、毎日の担任の指導に生かすとともに、教員全体で指導ができるように児童理解に努めた。	D		まなびポケットやタブレットでの保護者など利用方法の改善はいかがでしょうか。検討してください。	
6	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 月1回以上更新した。 3: 学期に2～3回更新した。 2: 学期1回以上更新した。 1: 更新しなかった。	2	4: 9 0% 以上	年度末保護者アンケートの「学校からの通信は、知りたい情報が盛り込まれている」「学校公開や保護者会等で、学校の様子がよくわかる」「学校は地域・保護者に対し、丁寧に対応している」の3項目で「あてはまる」「おおむねあてはまる」と回答した保護者の割合の平均値	今年度もコロナ禍であったことから、地域・保護者への教育活動を見ていただく機会が非常に少なかった。その中でいただいた保護者・地域の方々からの声に真摯に耳を傾け、誠実にかつ迅速な対応を心掛けてきた。ご意見をいただいたホームページの更新頻度を上げ、学校の情報を発信していくことについては、昨年度よりも回数を増やすことができました。当初は月1回以上の更新を計画していたが、最後まで計画通りに進められなかった。今後も地域・保護者が知りたい情報・教育活動を発信できるように努めていく。	A	3	学校教育、家庭教育、社会教育と三位一体の教育が望まれる。各々の立場が異なっても、良い子どもに育てる意思は変わらない。そして子ども一人ひとりに合った教育が大切だと考える。今、必要な事は、活かしあう場を多くすること。理解し合える環境を作ることです。	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4: 毎回情報を提供した。 3: おおむね情報を提供した。 2: あまり情報を提供しなかった。 1: 情報を提供しなかった。	3	3: 8 0% 以上		昨年度と同様に今年度も地域として学校に関与できる機会が少なく残念や、申し訳ないやという気持ちです。	B	5		
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4: 学期に2～3回行った。 3: 学期1回以上行った。 2: 年1回以上行った。 1: 実施しなかった。	2	2: 0% 以上		コロナ禍の中、先生方の保護者、地域の方の配慮が素晴らしいと思っています。これからも多数の意見を発信していただければ幸いです。開校60周年記念行事については、式典に出席いただき、学校の様子を見ていただくことができました。	C			
					1: 7 0% 未満		学校の児童の様子については、電話や対面で伝えし、学校と保護者の双方で連携した教育を目指した。今後も、地域力を生かした学習活動の構築をはじめ、学校・地域・保護者で子どもを育てることができるよう引き続き協力を求めていく。	D		HPの更新について、月1回の計画をお願いします。 商店街や町工場などよい教材になると思います。	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す